

資料2

市民の公益的な活動への支援に関する本市の課題について(案)
～主にソフト面における機能について～

(1)市民、地域の視点からの課題

①多様化する市民活動への対応

ア. 生涯現役、人生百年がうたわれる中、地域の元気につながる高齢者の活躍や居場所、つながりをつくるなど社会参加を続けるための支援が必要。

イ. 健常者も障がい者も一緒に活動できるよう、ノーマライゼーション^{※1}の視点での支援が必要。

※1 ノーマライゼーション：障がい者や高齢者といった社会的な弱者に対して特別視せず、誰もが社会の一員であるといった捉え方

ウ. 町内会館、公民館の利用が活発な地域がある一方、人が集まりにくくなっている地域があるなど、地域によって課題が異なることから、地域の実情に応じた支援が必要。

エ. 活動を継続していくための後継者問題が顕在化している。コロナ禍にあって、とりわけ町内会においては、活動の担い手や行事への参加者が減少するなどの問題が深刻化している地域もあることから、後継者の育成や町内会活動を盛り上げていくための支援が必要。

②分野や地域を越えた連携・つながりづくり

ア. 田園や森林が広がる地域がある本市の特性を生かし、そのような地域の町内会とNPOが連携するなど、分野や地域を越えた、各々の活動主体の長所をつなぐ支援が必要。

イ. 移住の受け入れや活動人口を増やす取組などを通して、活力が低下している地域に新たな連携やつながりを生み出していくための支援が必要。

③地域資源(人材、施設)の活用

ア. 支援の拠点となっている、とみづら、ボランティアセンターは居住する地域によっては距離的に利用しづらいことから、公民館など既存の施設を活用した身近な場所での支援も必要。

イ. 市民の活動の場として、最も身近な町内会館の活用を促進させていくことが必要。

ウ. 既に活動をしている市民や団体が、活動を始めようとしている人や活動に悩みを抱えている人を支援する仕組みづくりが必要。

④情報の発信と共有

ア. 市民が活動を始めるときにどのようにアクセスをしたらいいのかわかりにくい面があるので、誰もがわかりやすい情報を発信し、浸透させていくことが必要。また、多くの人に施設を利用してもらえるよう、情報発信の方法を工夫することが必要。

- イ. 活動の事例やノウハウをまとめたケースブックのようなものを作成するなど、市民の活動などを広く共有するための支援が必要。

(2)支援施設等が抱えている主な課題

①富谷市まちづくり産業交流プラザ(とみぷら)

- ア. 起業希望者が出店する場合に市内に適切な候補地が見つかりづらい。
- イ. 入居企業の増加により、新規に施設への入居希望があってもキャパシティに限界がある。(施設面)

②富谷市ボランティアセンター

- ア. 誰もが気軽に相談でき、タイムリーな支援を可能にするための地域ごとのボランティアセンターの構築や、災害時のボランティア体制構築時などに支援を拡充するための職員の確保。
- イ. 打合せや交流のためのいつでも使用できる場所の確保が難しい。(施設面)

③公民館

- ア. 利用者及び参加者のニーズに応えるためのスキルアップが必要。

イ. 築 30 年を超える施設が多く、経年劣化も見られることから、利用者の安全を図るための整備が必要。(施設面)

④市民協働課

ア. 専門的な相談対応や十分な情報提供、チラシの備付けなど活動団体が利用できるスペースの確保、活動団体同士の交流の場の拡充が必要。